

かがやき自立活動通信



草加かがやき特別支援学校 平成25年9月18日 No.3

夏季休業中に「ことばの育ちを支援する」というテーマの研修会に参加しました。北里大学の原由紀先生の講義の中で、話したい気持ちを育てるお話がありました。いくつかポイントをまとめてみました。



子どもへの接し方

① 質問の数を減らす

大人の質問に答えるより、子どもが自分の考えを自由に表現するほうが、ずっと自由に話せる。大人は質問するのではなく、子どもの言ったことに耳を傾け「聞いているよ」という態度を見せる。

② 話し方のアドバイスをしない

「ゆっくり」「落ち着いて」などは効果がなく、プレッシャーになることがある。「おもしろい話ね」など、話し方よりも内容に反応するようにする。

③ 最後まで話を聞く

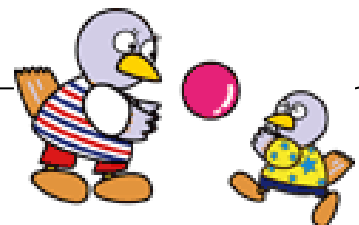
話を聞き終わったら、「～なのね」と話の内容を繰り返すと、最後まで聞いてもらった満足感と、伝わったという安心感が持て、話すことが楽しくなる。

④ 子どもの発達状況に合わせたコミュニケーションをとる

難しいことば・複雑な言い回し(「やってみないとわからない」という二重否定、「ティッシュ取って」と言えばよいところを「ティッシュある?」と聞いたりするなど)・長い文になっていないか?子どもの目の前の話題の内容にする。

安心して話せるために

- ・ 受容的な態度を示す。(「ダメだな」「下手だな」など人格否定にもつながるような態度は避ける。「〇〇できないと△△はナシだからね」のような話し方もせず、「〇〇できると△△やれるね」など意欲を持たせる。)
- ・ 否定的なコメントは肯定的に変更する。(「また怒っちゃったの?」→「本当に悔しかったんだね」、「できなかったんだ」→「〇〇までは頑張れたんだ」)
- ・ よく聞き取れないような話し方をしたときに、困った顔やつらそうな顔を見せない。
- ・ 行事前や緊張するような準備段階で、過度に心配させないようにする。
- ・ 疲れさせない。(疲れは子どもの一番弱いところに出ると言われる。食べられなくなったり、眠れなくなったり、落ち着いていられずイライラしてしまうなど、いろいろある。)



ゆったりとした気持ちで話すために

- ・ ゆっくりと子どもの話を最後まで聞いてあげる。
- ・ 子どもの話にかぶせて大人が話をしない。子どもが話し終えてからワンテンポおいて返す。
- ・ ゆっくりめに話しかける。
- ・ 子どもの代わりに話さない。
- ・ 1対1で話す時間を設ける。(他のきょうだいと別々の時間で話す。)

おまけ

要求表現を出すために

「〇〇して!」という子どもからの表現をたくさん出すためのワンポイントアドバイスです。要求表現は基礎的なコミュニケーションです。

- ・ 適切な要求表現を教える。(手を叩いて「ちょうだい」「やって」など。)適切な手段を覚えると、自傷・他害・パニックが減ると言われている。
- ・ 子どもがやってほしいと思われることを、少しだけ待たせて、表現を出すきっかけを作る。
- ・ 「〇〇がないと△△できない」状況にし、要求を出しやすくする。(スプーンがないとアイスが食べられないね。)
- ・ 遊びの最中に活動を中断し、要求を出しやすくする。(一本橋こーちよこちよ…階段上って……ここで活動を中断し、「くすぐって」の要求を待つ。)
- ・ 選択肢を提示する。(誰がやる?お母さん?〇〇ちゃん?、どっちの本を読む?) 選択肢はまずは2つくらいから。選択肢に「すごく好き」「あまり好きじゃない」と差をつけると選びやすくなる。
- ・ 子どもが要求を出せるようになったら、しばらくは要求に付き合うようにする。要求行動をことばや身振りで出しても、大人が応じてくれないと、子どもはやらなくなってしまう。

自閉的な傾向のある子どもの中には選ぶことが苦手な子どももいます。ニキ・リンコさんなど当事者の話では「正しいほうを選ばなくてはいけない」と勘違いをすることがあるようです。子どもが何かを選ぶときに、大人の顔色を窺うような様子が見られたら、リラックスした雰囲気を選べるようにしたり、「まずこっちを選んでみようか?」と両方を体験してみることもやってみましょう。



自立ノート

8月1日(木)に開催された自立活動の教職員研修では、49名の児童生徒の参加がありました。1時間程度の活動でしたが、「楽しかった!」という感想をたくさん聞くことができました。研修した内容は9月以降の自立活動の指導に反映させていただきます。

ご協力いただいた保護者の皆様に感謝申し上げます。